

「働き方改革」に関する提案 (第8回働き方改革実現会議)

慶應義塾大学 樋口美雄

1. 外国人人材の受け入れについて

高度人材については、さらに積極的な受け入れを促していく必要がある。未熟練の外国人労働者の受け入れについては、一時的なニーズの問題だけで即断すべきではない。日本人の雇用への影響や社会的コストも十分勘案すべき。韓国では二国間協定に基づく外国人労働者のコントロール制度を入れている。自分もヒアリングしたが、いろいろと問題を感じている。現在の技能実習制度に問題があることは十分承知しているが、さりとして直ちにこれがベストという具体案を持ち合わせていない。

本件は、一時的な労働力不足への対応といった視点だけで即断するのではなく国民の理解と判断が求められる。

2. 就職氷河期に卒業し非正規雇用労働者でいる方の正社員化など

就職氷河期に学校を卒業し、正社員になれず非正規のままで就業している方が多く存在。中間層の雇用環境の改善を図っていくためにも、こうした方たちの正社員化を進めていくことが不可欠。現在のタイトな雇用環境はそのチャンス。同一労働同一賃金の取組みを通じた教育・研修機会の提供や、きめ細かなマッチング支援など、そのための対策を実行計画では明確に記述すべき。

また、長期離職者、引きこもりの人、高齢者、障害が疑われる人など就職困難者に対し、生活困窮者自立支援法で、自治体が企業等の協力を得ながらこうした人に合わせた支援を行っているが、こうした取組みの充実が不可欠。

その他、高齢の方が働く力を維持していくための健康づくり、フレイル(虚弱)段階での進行防止対策、障害者の職業生活の改善を図るため最新技術を活用した補装具の普及などが重要。